

レポート



早稲田大学の大学改革 ～Waseda Vision 150～

早稲田大学副総長 橋本周司

皆様、ようこそ早稲田にお出で下さいましてありがとうございます。全日本大学開放推進機構のセミナーも12回目ということで、このような場でお話をさせていただけるということで、大変感激しております。開催要項を拝見いたしますと、本日のタイトルが大学開放ということで、私どもも、これを更に進めたいと考えているところです。はじめに、今早稲田がどんなことをやっているのか、ということをお話しようと思います。

早稲田大学では、昨年に創立130周年を迎えました。本来であれば130周年の記念行事を検討するところではございますが、それは125周年の際に行いましたので、特別な記念行事を行うことはせず、1年をかけて今後の早稲田大学の歩むべき方向性を議論して、将来のビジョンを確立することにいたしました。そして、創立150周年を迎える20年後を目標とした中長期ビジョン「Waseda Vision 150」を策定いたしました。

20年後の早稲田大学を思い描き、教育・研究については「世界に貢献する高い志をもった学生」がキャンパスで活発に活動し、「世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究」が盛んに行われ、「グローバルリーダーとして社会を支える卒業生」が社会にあふれ出ていくこと、及び、これを可能にするための大学経営について、「アジアの大学のモデルとなる進化する大学」の実現という4つのビジョンを定め、13の核心戦略を策定しました。そして本年4月から核心戦略を具現化する合計75のプロジェクトが始動いたしました。

特に申し上げたいのは、「Waseda Vision 150」の中では、大学のグローバル化とあわせて、大学の社会への開放と社会人教育の充実が大きなテーマになっており、本日のセミナーの内容と重なるところが多いということです。この意味でも、早稲田大学で開催されるということは私どもにとっても大いに意義のあることであります。

「Waseda Vision 150」では、多くの数値目標を掲げておりまして、大学の社会への開放の一環として、授業の公開率を100%にすること、また、現在3万5千人の社会人が早稲田で学んでおりますが、これを5万人とすることなどを定めております。本学の社会人教育としては、一般向けの講座ばかりでなく、専門的なビジネスや資格取得にかかるプログラムも提供しておりますが、事業としての展開はまだ十分とはいえない状況です。20年後

というとはるかに先のことのようにもありますが、そのための第一歩は今踏み出さなければなりません。私の挨拶に続いて、加藤哲夫教授が現状をご報告いたしますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければありがたく存じます。

本日のセミナーが、皆様にとって、また、私どもにとっても実りのあるものとなることを期待して、歓迎のご挨拶とさせていただきます。

以上

橋本 周司 (はしもと・しゅうじ)

1948年生まれ。1970年早稲田大学工学部応用物理学卒業。同大学院理工学研究科を経て、1977年早稲田大学工学博士。東邦大学講師、助教授、早稲田大学助教授を経て、1993年より早稲田大学工学部教授(組織改編により、2004年より理工学術院教授)。2006年より2010年まで理工学術院長。2010年11月より現職。2000年4月より早稲田大学ヒューマノイド研究所所長。確率過程の応用、画像処理、ロボティクス、音楽情報処理、などの研究を通して、人間共存ロボット、メタアルゴリズム、感性情報処理、ヒューマンインタフェースに興味を持つ。主な著書に『仮想音楽空間』、『人間型ロボットのはなし』、『岩波講座マルチメディア情報学第1巻』など(いずれも共著)。IEEE 東京支部 Chapter Promotion Committee 委員長、日本顔学会理事、日本 AS-i 協会会長。電子通信情報学会、情報処理学会、日本バーチャルリアリティ学会、ヒューマンインタフェース学会、計測自動制御学会、日本ロボット学会、画像電子学会、西日本歯科矯正学会などの会員。